2013年3月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第434号

地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円（本体143円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター　〒162-0836　東京都新宿区南町20
編集　アクセス編集委員会　TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

第28回梓会出版文化賞特別賞を受賞して

――風土が企画を呼びおこす――

文・小野静男

▼弦書房の原点

このたびは梓会出版文化賞特別賞をいただくことができ光栄に思います。

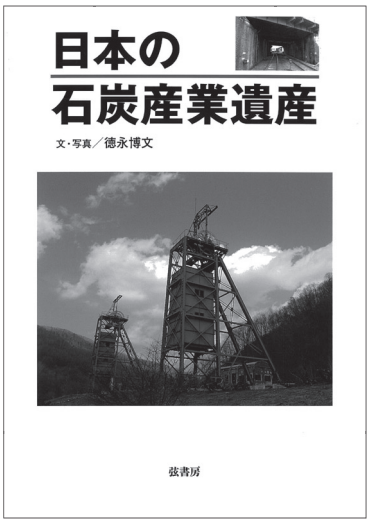
弦書房は昨年12月で創業10周年を迎えました。刊行した本は200点余り、私家版を除くと130点余りです。

今から23年前の1990年秋に、福岡の葦書房に入社しましたが、その年の冬に第6回めの梓会出版文化賞特別賞の受賞が決まったことを今でもはっきり憶えています。それ以来、毎年冬になると今年はどの出版社が受賞したのかを確認するようにしていましたが、代表を引き継いでからのこの4～5年はその余裕もなく走って来たように思います。

この10年の間に、何のために本を作っているのかというその気持ちにブレが生じ始めたりすることがよくありましたが、そのときにはあの葦書房時代に毎日眼にしていた山本作兵衛さんの『筑豊炭坑絵巻』や渡辺京二さんの『小さき者の死』、水俣病研究会の『水俣病事件資料集1926－1968全2巻』といった本をくり返し眺めて、気持ちを立て直していました。だから今回の受賞は、葦書房時代の13年間の上にあるということを改めてかみしめています。

▼記憶を留めるもの

斎藤美奈子さんが評価してくださった『日本の石炭産業遺産』という本の構想は、2005年に刊行した『九州遺産　近現代遺産編101』から始まっています。明治以来の「近代化」の意味を考えるときに、文献や証言だけではとらえにくい時代の顔をはっきり見定めるには建造物そのものがその場所にあるということがかなり重要になってきます。そういう建造物の保存と活用のために、その価値を鮮明にするという目的で、この7～8年間で十数点の近代化遺産関連書を刊行してきました。



A5判／284頁／定価2,200円＋税

〈福岡〉という場所がこういった本の企画を呼び起こしてくれるような気がします。筑豊にも近いし、三池、島原、天草、水俣へも何度も通いました。九州には独特の風土があって、鳥や魚も含めた博物誌のような本をテーマ別につくるのも楽しいです。ずいぶん以前に、ネパールで暮らしているときにヒマラヤの麓をかなり歩き廻りましたが、あの巨大な山々の風景と比べても、九重から阿蘇にかけて広がる高原は自然のおもしろさという点では同じ魅力に満ちていると思います。何度訪ねても以前には気づかなかったものに気づかされる、というその独特の高揚感を求めて、またそこへ行きたくなる、そういう場所だと思います。筑豊にしても天草にしても似たような空気を持っています。

そういう土地のにおいとそこで出会った個性的な人たちのことばにこだわっていきたいです。たとえば、熊本の旧制第五高等中学校時代にラフカディオ・ハーンから英語の授業を受けた学生のノートが発見されたので、そのノートを中心にしたハーンの英語教育法がわかる本を制作しています。それから、九州最長の河川である筑後川を源流（九重と阿蘇）から河口（有明海）まで、それぞれの流域に暮らす人たちに語らせる形で、川がなければ暮らしは成り立たないことも含めて全貌に迫ろうという本や、未だによく知られていない隠れキリシタンの村が長崎の郊外にあって、その村がどのような事情で現在に至ったのかを聞きとり調査をもとにまとめようとしている本、《近代化遺産シリーズ》では熊本の近代化遺産を集成した全2巻本などが今年中になんとか刊行できそうです。いずれの本も、数年の準備期間を経て、ようやくここまで来たといったかんじです。

これからも月に1～2点刊行のペースで続けていくつもりです。

▼本質的な仕事をやるのみ

それと、出版社を縁の下から支えているといってもよい印刷所のことについて、少しふれておきます。現在の印刷所の現場の努力はめざましいものが

あり、特に、カラー印刷では、濃淡、コントラストまで含めて微妙な調整をこなし、オリジナルの写真よりも鮮かに仕上がることも多いのです。紙に印刷された物としての本になって初めて読者に認めてもらえるわけで、そこに至る作業を黙々とこなす印刷現場の職人さんたちの顔を忘れないようにしています。

かつて葦書房の故・久本三多氏が言っていました。出版の仕事というのは、文化の一翼をになうといった観念的なことをやっているのではなくて、ラーメン屋がラーメンを作るように、つまり、スタイルを気にするのではなく常に同じ味、常に本質的な仕事をやってゆけばそれでよい――このことはすべての仕事に共通して言えることだと思いますが、これを肝に銘じて、分をわきまえた出版活動をやっていくつもりです。

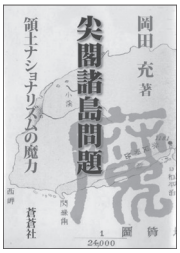
本日は、このようなご挨拶の場を与えていただきましてありがとうございます。

（1月17日、梓会出版文化賞贈呈式会場で受賞のスピーチから、おのしずお／弦書房代表）

新刊ダイジェスト

※価格は総額（税込）表示です。

『尖閣諸島問題　－領土ナショナリズムの魔力』●岡田　充著



尖閣諸島をめぐる問題は、最近特に日中関係を冷え込ませる大きな要因としてクローズアップされています。とかく領土をめぐる言説の中では、譲渡か戦争かのふたつしか選択肢がないように言われがちです。しかし30年にわたり中国・台湾を見てきた著者は、ここまでこじれた要因を探り歴史を紐解いて、棚上げという選択肢の重要性を説いています。さらにはアメリカの中国政策も含んだ国際情勢をにらみつつ、ナショナリズムを超えた環東シナ海全体の相互交流と発展にも言及しています。日・中・台それぞれの言い分をまとめた資料もついていて、尖閣諸島問題の過去を知り未来を考えるにはうってつけの一冊です。

◆1995円・Ａ５判・246頁・**蒼蒼社**・東京・2012/11刊・978-4-88360-113-4

『MANJIRO　ジョン万次郎　－二つのふるさとをあいした少年』●エミリー・アーノルド・マッカリー著／高嶋哲夫ほか訳

14才の漁師、万次郎は仲間と海に出た日、嵐に遭い、小さな島にたどり着く。半年後、アメリカの大きな船がやって来る。万次郎は船員たちの仕事を真似たり、アルファベットを覚えたりと勉強熱心。船員たちからはジョンというあだ名で呼ばれるようになる。やがて船長のすすめでアメリカへ渡り、航海術を学び、いずれ日本に戻る計画を立てる。11年振りに故郷に戻った万次郎は恋しい母と再会後、江戸で活躍することになる。鎖国の真っ只中にあった日本で自分が見聞したアメリカの情報を伝えた万次郎の帰郷までを描いた翻訳絵本。勇気と好奇心で数々の困難を乗り越えた彼に学ぶところは大きい。日本とアメリカ、二つの故郷を愛した少年の物語。

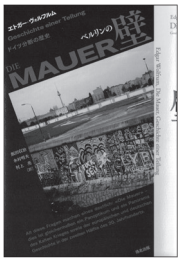
◆1575円・Ａ４判・38頁・**星湖舎**・大阪・2012/11刊・978-4-86372-046-6

『図書館と電子書籍　－ハイブリッド図書館へ』●山崎博樹ほか著

2010年、電子書籍元年といわれてから3年。端末器の動きの慌しさに比べて、電子書籍時代は期待どおりには定着していないように感じる。まだまだコンテンツが貧弱であると共に、住民の読書を担う地域の公立図書館に取り組みへの戸惑いがあるからと思われる。そこで、電子出版界と図書館界双方から、現場の状況を率直に披瀝して相互理解を深め、「ハイブリットと呼ばれる紙＋電子図書館に発展」させていくためにはどうすべきか考えてみようと企画されたものである。先行する韓国の動向、電子書籍貸出を行う千代田図書館の事例などを踏まえ、デジタル機能に根ざした新しい図書館のサービスと存在意義を展望する。

◆2100円・四六判・160頁・**教育出版センター**・徳島・2012/11刊・978-4-905702-63-4

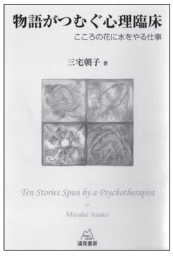
『ベルリンの壁　－ドイツ分断の歴史』●エドガー・ヴォルフルム著／飯田収治ほか訳



1989年、東西冷戦時代の象徴だった「ベルリンの壁」が倒壊した。1961年、東から西への市民の大移動を防ぐために、ベルリンを東西に隔てる巨大な壁が東ドイツによって建設された。本書は、今や忘れ去られようとしているこの「ベルリンの壁」について、その始まりから終わりまで書かれた初めてのまとまった通史である。と同時に、背景となる当時の世界の情勢もおのずと分かるようになっているのが良い。しかも誰でも気軽に読めるように書かれているのも良い。多くの人々を翻弄したこのような「壁」は、イスラエルによってパレスチナにつくられた隔壁をはじめ、今なお世界中に多数存在していることを強調して結びとしている。

◆2520円・四六判・283頁・**洛北出版**・京都・2012/12刊・978-4-903127-17-0

『物語がつむぐ心理臨床　－こころの花に水をやる仕事』●三宅朝子著



摂食障害で著者のクリニックへ母親とともにやってきた女性。長い不妊治療に耐えてやっと妊娠したがやがて過食が始まり…しゃべるのは母親ばかりで、当の本人は窓の外の雪景色をぼんやり見ている。また祖父母に連れられてクリニックにやってきた中学生の少年。祖母が説明する。「キツネがついたんですわ。先生」…。他に統合失調症の男性や病で死を間近にした老婦人等、10のクライエントの事例が季節の推移を背景としつつ語られる。どれも「事例」というにはあまりにも語りや描写が美しく、そしてどのケースも治癒や希望の予感をもって終わる。まるで名手による「珠玉の短編集」のように、どの「物語」も感動せずには読み終えることができない。

◆2100円・四六判・226頁・**遠見書房**・東京・2012/11刊・978-4-904536-49-0

地方小出版 流通センター　ジャンル別 新刊案内

2013年1月1日～31日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は
所在地の北から南の順に並んでいます。

価格は総額（税込）表示です。

【雑誌】

◆**季刊　メタポゾン**　第８号　鈴木　康之編　Ａ５　280頁　２１００円　寿郎社　［北海道］　978-4-902269-56-7　13/01

◆**ゆきのまち通信**　１４４　企画集団ぷりずむ編　Ａ５　50頁　５００円　企画集団ぷりずむ　［青森］　978-4-503-19748-1　13/01

◆**榛名団**　５号　富沢　智編　Ａ５　90頁　６０１円　榛名まほろば出版　［群馬］　978-4-503-19753-5　12/12

◆**ＧＲＥＥＮ　ＲＥＰＯＲＴ**　３９７　廣瀬　仁編　Ａ４　192頁　２８００円　地域環境ネット　［埼玉］　978-4-905457-29-9　13/01

◆**子どもと昔話**　Ｎｏ．５４　小澤昔ばなし研究所編　Ａ５　79頁　８３０円　小澤昔ばなし研究所　［神奈川］　978-4-902875-52-2　13/01

◆**かまくら春秋**　Ｎｏ．５１４　田村　朗編　Ｂ６　90頁　２９０円　かまくら春秋社　［神奈川］　978-4-7740-0585-0　13/02

◆**詩とファンタジー**　第２１号　やなせ　たかし編　Ａ４　96頁　１０５０円　かまくら春秋社　［神奈川］　978-4-503-19761-0　13/03

◆**洪水**　第１１号　池田　康編　Ｂ５　132頁　１０５０円　草場書房　［神奈川］　978-4-902616-52-1　13/01

◆**道**　Ｎｏ．１７５　木村　郁子編　Ａ４　74頁　１２００円　どう出版　［神奈川］　978-4-904464-43-4　13/01

◆**くらしと教育をつなぐ　Ｗｅ**　Ｎｏ．１８２　稲邑　恭子編　中村泰子、冠野　文編　Ａ５　80頁　８００円　フェミックス　［神奈川］　978-4-903579-48-1　13/02

◆**オルタ**　４３８　田中　滋編　Ａ４　48頁　８４０円　アジア太平洋資料センター　［東京］　978-4-503-19749-8　12/12

◆**比較都市史研究**　第３１巻　第２号　比較都市史研究会編　Ｂ５　71頁　３１５０円　岩田書院　［東京］　978-4-503-19760-3　12/12

◆**レコード・マネジメント**　Ｎｏ．６３　下田　尊久編　Ａ４　123頁　３０００円　岩田書院　［東京］　978-4-503-19759-7　12/12

◆**ＨＯＴ　ＣＨＩＬＩ　ＰＡＰＥＲ**　Ｖｏｌ．７４　ＨＯＴ　ＣＨＩＬＩ　ＰＡＰＥＲ編集部編　Ａ４　128頁　１５００円　エイチ・シー・ピー　［東

売行良好書　期間：2013年1月16日～2月15日

［出荷センター扱い］※税込み価格

(1)『幸せのかたち』1890円・南方新社　(2)『東上線各駅短編集』1260円・まつやま書房　(3)『日本に生きる北朝鮮人　リ・ハナの一歩一歩』1365円・アジアプレス出版部　(4)『居場所を探して』1680円・長崎新聞社　(5)『伊藤野枝と代準介』2205円・弦書房　(6)『非原発』3990円・一葉社　(7)『ゆりちかへ』1365円・書肆侃侃房　(8)『地域に飛び出す公務員ハンドブック』1575円・米子今井書店　(9)『ぐうたら旅日記　恐山・知床をゆく』1365円・寿郎社　(10)『幸せに暮らす集落』1890円・南方新社　(11)『ボールペンで描く北海道の駅舎たち』2625円・バルク・カンパニー　(12)『絵本の庭へ』3780円・東京子ども図書館　(13)『本土の人間は知らないが、沖縄の人はみんな知っていること』1365円・書籍情報社

［三省堂書店神保町本店４Ｆ―センター扱い図書］※税込み価格

(1)『東京かわら版　２月号』420円・東京かわら版　(2)『昭和プロレスマガジン２８』1000円・昭和プロレス研究室　(3)『非原発』3990円・一葉社　(4)『戦国史』1680円・上毛新聞社　(5)『信濃屋代一族』2100円・歴研　(6)『伊藤野枝と代準介』2205円・弦書房　(7)『螺旋海岸　ｎｏｔｅｂｏｏｋ』2100円・赤々舎　(8)『居場所を探して』1680円・長崎新聞社　(9)『絵金　極彩の闇』3990円・赤々舎　(10)『デヴィッド・リンチ展～暴力と静寂に棲むカオス』2940円・赤々舎

［ジュンク堂書店池袋店地方出版社の本―センター扱い図書］※税込価格

(1)『東上線各駅短編集』1260円・まつやま書房　(2)『ぐうたら旅日記　恐山・知床をゆく』1365円・寿郎社　(3)『図書館と電子書籍』2100円・教育出版センター　(4)『伊藤野枝と代準介』2205円・弦書房　(5)『居場所を探して』1680円・長崎新聞社　(6)『自然農・栽培の手引き』2100円・南方新社　(7)『大西　祝』1260円・吉備人出版　(8)『ひずみの構造』980円・琉球新報社　(9)『消えた琉球競馬』1890円・ボーダーインク　(10)『原田正純追悼集　この道を－水俣から』2940円・熊本日日新聞社

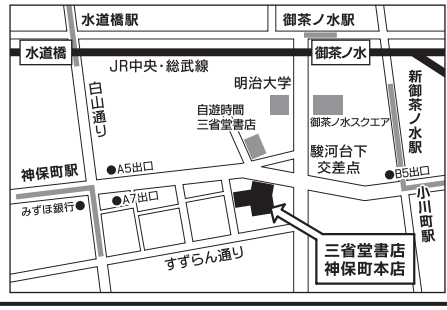
以下ホームページでも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
本と出版流通のページ：http://neil.chips.jp/

トピックス ―― ★★★

▼先月号にて告知しました通り、３月31日(日)まで、喜久屋書店宇都宮店において**「全国新聞社ふるさとブックフェア」**開催中です。参加新聞社は25社、出展冊数約1000冊。岩手日報社刊『明日への一歩－ 2011.3.11 東日本大震災 岩手の記録〈2〉大津波復興の証言』、琉球新報社刊『ひずみの構造－基地と沖縄経済』、おおいたインフォメーションハウス刊『一度はみておきたい大分の祭り』等々。
▼京王ＳＣ 9Fの啓文堂書店京王八王子店にて現在**フライの雑誌社単独フェア**開催中です。期間は〈桂川の解禁まで〉とのこと。『フライの雑誌』バックナンバーを中心に単行本も。水口憲哉著『淡水魚の放射能－川と湖の魚たちにいま何が起きているのか』、芥川賞作家の大岡玲著『文豪たちの釣旅』等々。
▼遅ればせながら、最近Twitterなるものを始めてみました。ホームページの新着情報や全国各地の出版社さんの新刊案内、話題等々を日々つぶやいています。日常業務に忙殺されながらなので、あまり時間がとれないのが最大の悩み。1日1ツイート以上を目指します。**当センター公式アカウント @local_small** をよろしくお願いいたします。

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。
◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。基本的にメール便は、一冊２１０円でお送り致します。（メール便の到着は、発送してから３～４日かかります。）お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合せ下さいませ。
◎なお書籍お買上総計（税抜き価格）が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせて頂きます。
★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

三省堂書店　営業のごあんない
BOOKS SANSEIDO
神保町本店 ４階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp
本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。